

東海道草津宿關係史料 (庄屋駒井与左衛門家文書) (二)

小林 博

〔駒井家文書 一五ノ一〕

- 一 神亥村尉之訊
- 一 助郷御證文之写
- 一 御飛脚米御證文之写
- 一 無賃人馬御證文之写
- 一 從御公儀様為御飛脚往來年々被下米之事
- 一 同 宿方江永拝借并御救<sub>ホ</sub>被下候事
- 一 同 人馬賃錢割増之内勿<sub>レ</sub>錢之溜御貸付利金被下候事
- 一 附 本陣修覆為御手当金被下候事
- 一 地子御免坪之事
- 一 御拝借之事
- 一 宿方明細帳之写
- 一 御改所一件
- 一 坂口見付
- 一 是者從 御公儀様被仰付候 其節御役人西村善六

様、西森弥兵衛様、岡崎茂兵衛様 宮ノ橋 札之  
辻見付出来候上御下向被遊候東坂口之義者内御壹  
人御残リ被成見付出来之上石部江御越被遊候

一 黒門

此門之儀者宮橋詰石垣之上ニ御座候得共石垣相崩  
候故見付代リニ矢倉村境へ相立可申候此小路十右  
衛門と申節ニ者広ク御座候へ共二度之火事ニセバ  
く致し候此小路廿四小路之内也

一 矢倉村出火式度有之候節宮町半町又小町程焼失仕  
り候 其節御奉行様へ火除願候得共 付不申候

神亥村尉之訊

- 一 西村 辻与次兵衛割  
元次郎右エ門家之
- 一 太左エ門方 辻 忠三郎
- 一 走村 神子ノ家  
助三郎
- 一 茂右エ門方

東海道草津宿関係史料(二)(小林)

一 真村 元善三郎

太左エ門方

いせや

源太郎

嘉永年中

ひの屋藤藏

一 小路有此廿四小路之内是ニ免 有裏迄此

筋通り申候其後安兵衛屋敷返申候

一 走村

太左エ門方

辻与次兵衛割

元久兵衛跡

辻 五兵衛

一 西村

太左エ門方

元李兵衛家

仁兵衛

源次郎

一 西村

太左エ門方

四丁目仙合屋ノ事

宇野勘六

一 西村

茂右衛門方

元茂左エ門

九郎兵衛

市郎兵衛

彦兵衛

五兵衛

次左エ門

八兵衛

三右エ門

山内半助

伊兵衛ノ事

一 今村

茂右エ門方

五丁目跡

彦兵衛

此小路西東共廿四小路之内

一 走村

茂右エ門方

原本此処鼠くい  
文字難相分

市 内トカ

助トカ

壹斬ノ割

七兵衛

元孫作家

宮家

元小野源兵衛敷

吉兵衛

一 今村

太左衛門方

出雲割

小野源兵衛

一 今村

茂右エ門方

代ト神主

小野出雲

一 茂右エ門方

対馬屋

藤兵衛

一 今村

茂右エ門方

花屋

庄九郎

近江屋宗助

一 太左衛門方

一 走村

茂右エ門方

善右衛門

又七持

一 太左衛門方

与十郎

市兵衛

真村  
太左衛門方

半兵衛  
庄七

走村  
茂右エ門方

はし本や  
武兵衛  
儀助

六町目

此小路往古ハ青地日向守道也 半助屋敷尻池の堤廻り角ニ大成松の木有り屋敷式軒斗出候右之松ヲ取込則池之堤東正定寺境迄はい廻仕候

西村

山内半助

茂右エ門方

太左衛門方

せたや久左衛門割  
宇野源左衛門  
安兵衛

茂右エ門方

いせ屋  
次左衛門  
新兵衛

真村  
茂左エ門方

桶屋次郎左衛門事  
平助  
治右衛門

同村  
茂左エ門方

内喜利兵衛  
惣兵衛

今村  
太左エ門方

惣助  
兵助

同村  
太左エ門方

八百屋

吉兵衛

真村  
茂左エ門方

五郎助家

西村  
茂左エ門方

井上庄右衛門

真村

茂左エ門方

喜原次家  
山内孫右衛門

此小路東西廿四小路之内

五町目

真村  
茂右衛門方

養專寺

同村  
茂右エ門方

宇野仁右衛門

同村  
茂右エ門方

野路屋

同村  
茂左エ門方

同

此小路廿四小路之内氏前裏ニ浄蓮坊有今其跡日吉三王権現有之候則是ヲ御所ノ小路ト云

一走村  
五左衛門方

清五郎  
与助

一走村  
太左エ門方

茂八  
久兵衛

東海道草津宿関係史料 (二) (小林)

- |   |             |                      |   |                                     |
|---|-------------|----------------------|---|-------------------------------------|
| 一 | 真村<br>茂右エ門方 | 正定寺持                 | 一 | 七兵衛<br>八兵衛<br>久兵衛                   |
| 一 | 走村<br>茂右エ門方 | 池田屋<br>仁右衛門<br>宇野長三郎 | 一 | 又左衛門方                               |
| 一 | 走村<br>茂右エ門方 | 茶碗 市兵衛家<br>ぬたの 庄兵衛   | 一 | 走村<br>茂右エ門方                         |
| 一 | 走村<br>茂右エ門方 | 茶碗屋 市兵衛              | 一 | 武兵衛<br>深尾又七                         |
| 一 | 真村<br>茂右エ門方 | 望月十助                 | 一 | 野路屋<br>深尾又兵衛                        |
| 一 | 真村<br>茂右エ門方 | 元寺左衛門家<br>同 又四郎      | 一 | 真村<br>太左エ門方                         |
| 一 | 走村<br>茂右エ門方 | 弥左衛門家<br>孫 八<br>平 太  | 一 | 走村<br>太左エ門方                         |
| 一 | 走村<br>茂右エ門方 | 弥兵衛家                 | 一 | 此小路後の出火の砌三尺通喜兵衛屋敷取込申し候惣蔵<br>毎度申出し居候 |
| 一 | 走村<br>茂右エ門方 | 三町目                  | 一 | 六郎兵衛                                |
| 一 | 走村<br>茂右エ門方 | 三町目                  | 一 | 柏屋<br>十右衛門<br>天保年中人足直し<br>嶋田十右衛門    |
| 一 | 真村<br>茂右エ門方 | 今村<br>五左エ門方          | 一 | 与次兵衛                                |
| 一 | 真村<br>茂右エ門方 | 真村<br>太左エ門方          | 一 | 奥村<br>孫十郎                           |

一 走村 国谷八左衛門  
茂右エ門方 平井屋利兵衛

一 太左エ門方 須佐美六右衛門  
真村 升屋儀兵衛

一 茂右エ門方 深尾長兵衛  
真村 北村九右衛門

一 茂右エ門方 七兵衛  
真村 元屋善兵衛

貳 町目

此小路大切成小路大御廻り様ノ道也 此明地昔ノ火除  
ニ候処九藏町内へ合意も被致不申 膳所様へ御願申除  
地ニス

一 太左エ門方 田中九藏

一 西村 田中清左エ門跡  
太左エ門方 宇野治郎左衛門  
仙台屋茂八

一 西村 辻四郎兵衛  
茂右衛門方

一 西村 門口式間通 錢屋  
又左エ門方 老間通 藤屋

山中伊右衛門  
駒井廉次郎

一 今村 浄泉寺割  
又左エ門方 駒井与兵衛

一 走村 宮町午兵衛割  
又左エ門方 高田長三郎  
駒井藤吉

此小路江戸屋八左衛門角屋利エ門池田屋仁右衛門右庄  
屋役之節此明地老間通円融寺真願寺道被望候ニ付三度  
迄及公事三度乍三度丸屋徳右衛門相手を罷成町内之地  
面ニいたし以後町内之物成と云此地面元錢屋四郎兵  
へ地面ニ御届ゆ処此一件ニ付錢屋四郎兵衛も合点いた  
し丁内の物成ニいたし申し其後往来ノ東へ五間之間町  
内建物地ニ致し残り地面ハ半分ツ、碇屋長兵衛藤屋与  
左エ門へ借置年々地下御藏ニ而御年貢町内へ請取申し  
以後地面売買之儀も町内次第ニ御座ゆ其引合ハ徳右エ  
門致被置申ゆ  
右長三郎屋敷与左エ門持ニ相成ゆ後天保午年段々頼ニ  
付町内一同請ゆ上老間半通表迄年々米老石宛年貢藏ニ  
而請取永代貸置候事  
是迄ハ昔ノ記録写置

叁 町目

一 西村 半助  
又左エ門方 宇野源右エ門持

一 今村  
太左エ門方  
追分村丑右衛門家来  
宇野源右衛門

一 西村  
太左エ門方

竹村清兵衛割  
竹村吉兵衛(斜線アリ)  
笹屋半助

一 真村  
太左エ門方

下村九郎右衛門(斜線アリ)  
片山弥助

一 走村  
又左エ門方

岡田源太郎  
須佐美六右エ門

一 西村  
左エ門方

寛保三亥年片山名弘ム  
片山弥兵衛

此屋敷川筋忠左エ門屋敷ニ付申しゆ見付之裏ニ生ノ次郎八庄屋之時代米斗り権九郎出屋まの利兵へ丸屋徳右エ門ト立会東ノ見付二尺裏ニ境目を打申しゆ但見付の式尺裏ニ境目有り是る繩引通し有之表屋敷いっはいニ繩引通し申し

一 西村  
又左エ門方

山中利右エ門跡  
須佐美忠左エ門

一 走村  
又左エ門方

青ノ高兵衛組辻四郎兵衛割  
辻五郎兵衛(斜線アリ)  
吉田屋平右衛門

一 走村  
又左エ門方  
元半エ門  
四郎兵衛割  
辻五郎兵衛(斜線アリ)  
八百屋吉兵衛

一 走村  
又左エ門方  
竹村清兵衛組  
辻四郎兵衛割  
辻源藏(斜線アリ)  
辻五郎兵衛

此火除地川る表込凡三拾間余有之元青ノ六兵衛地面也くわたいニ間口ヲ取れ申し候

一 走村  
又左エ門方  
元伝三郎  
追分丑右エ門百姓  
宇野新右衛門(斜線アリ)  
辻五良兵衛持

一 走村  
又左エ門方  
元儀兵衛跡  
半四郎  
徳右エ門(斜線アリ)

一 真村  
又左エ門方  
清助割  
高田庄次郎(斜線アリ)  
嶋屋文六

一 真村  
又左エ門方  
蜂屋四郎兵衛出  
同 清助

一 走村  
又左エ門方  
元追分  
元之亟跡  
近年之内金ニ而侍  
披露いたし申し候  
富井平兵衛  
宇野新右エ門

一 西村  
又左エ門方  
久右エ門跡  
同 平兵衛  
文助

東海道草津宿関係史料 (二) (小林)

一 走村

又左エ門方

下戸山出

佐野助之返

木屋忠藏

忠五郎跡

富井平兵衛持

一 西村  
又左エ門方

はちや出

高田清左エ門割

高田次郎八

宝曆十二年土

一 走村

又左エ門方

井上勘七

一 西村

又左エ門方

又三郎跡  
甚左衛門

一 西村

茂右エ門方

升右衛門

此小路廿四小路之内向ノ辻子釣瓶落しの通と云切口の  
川尻ヲ引上候所也

一 西村

茂右エ門方

茂 七

甚四郎跡

元志ゆかん長次郎跡

竹村甚七

一 茂右エ門方

市助跡

一 茂右エ門方

一 今村

又左エ門方

平井屋善五郎

一 走村

又左エ門方

藤掛孫六跡

醤油屋  
六兵衛

一 又左エ門方

追分出

善五郎持

一 茂右エ門方

又左エ門方

久兵衛跡

一 今村

茂右エ門方

太郎兵衛

此火除上下昔有之候所也

是る東正徳元年迄田地也

此小路廿四小路之内也 昔道広ク候所也本願寺場所

一 西村

茂右エ門方

元大工市三郎  
大工九兵衛組

高田次郎八持

車屋

一 走村

又左エ門方

半右衛門

一 茂右エ門方

半四郎

山寺出

ほとや

一 今村

茂右エ門方

ほとや

吉兵衛

一 真村

茂右エ門方

駒井出宝曆八年名弘メ  
金直し

八田吉兵衛

此小路昔有来り候小路也

此屋敷川筋也

清助家

伝 助

一 真村  
茂右エ門方  
此屋敷裏川筋也木挽太右門ノ畑屋吉兵衛家敷适川筋又  
四郎是を屋敷ニスル

治郎八ノ割

高田儀助

一 今村  
又左エ門方

名字ハ

今井茂七

浄教寺屋敷川筋

一 真村

茂右エ門方

太右衛門  
権 助

池堤ノ跡

庄兵衛持

池ノ堤

高田儀助

町 家

池ノ堤

八郎兵衛

一 又左エ門方

池ノ堤

源四郎

権四郎

一 茂右エ門方

油

作兵衛

一 茂右エ門方

池ノ堤ノ橋

矢万田出

須佐美徳右衛門

一 此小路池ノ堤ニ而御座ル但し道はなし

一 此石境寛永二年仁右エ門利助所を直し被置ル

中 小 路

岡本屋

太兵衛

一 茂右エ門方

此裏ニ

大夫屋敷

有

山田屋  
孫太郎

一 此小路廿四小路之内夷子の辻矢倉坂江変候

一 真村

茂右エ門方

勘四郎

元林九兵衛割

林安兵衛

一 太左エ門方



一 茂右エ門方 青地屋  
 太助  
 古木屋次郎兵衛  
 茂右エ門方  
 藤屋仁兵衛  
 益田屋武兵衛  
 片山勘兵衛  
 杉屋庄兵衛  
 常善寺屋敷  
 与兵衛  
 一 茂右エ門方  
 西村  
 茂右エ門方  
 一 茂右エ門方  
 西村  
 茂右エ門方  
 一 茂右エ門方  
 西村  
 茂右エ門方  
 一 茂右エ門方  
 太左エ門方  
 利兵衛  
 六町目  
 此堤御田地ノ通道往来ノ貫ケ道也 此堤ハコマ坂ノ藪  
 ト云則鍛治勘六ノ藪也 此藪ニ而月々六才ノ市ノ神有

リ其所方盜取り申しぬ此川筋四区庄志づ川ト云也  
 一 今村 小作  
 宇野源七  
 又四郎  
 宇野源左エ門  
 辻与次兵衛  
 堅田屋平六  
 高田三郎右エ門  
 高田小左衛門  
 源右衛門  
 皮屋清兵衛  
 一 茂右エ門方  
 一 茂右エ門方  
 一 茂右エ門方  
 直村  
 茂右エ門方  
 一 茂右エ門方  
 走村  
 茂右エ門方  
 一 茂右エ門方  
 太左エ門方  
 一 茂右エ門方  
 今村  
 半助 持  
 糞屋  
 甚兵衛  
 半助 持  
 此裏の勘四郎藪ニ昔々古キ石堤有  
 享保十二年  
 金直し  
 山内小右衛門  
 一 真村  
 茂右エ門方

一 茂右エ門方  
米五郎持  
多一

一 真村  
茂右エ門方  
山内仁兵衛

五町目

御田地への通ひ道広キ道ニ御座候

常善寺屋敷

一 今村

藤掛勘三郎

茂右エ門方

川端屋卯兵衛

一 今村

宇野長次郎

茂右エ門方

坂本屋文六

御田地へハ通道広キ道也

四町目喜兵衛割

一 今村

糸井勘右衛門

太右エ門方

組

一 真村

高田清助割

太左エ門方

高田清次

一 真村

宇野長次郎

茂右エ門方

清次持

一 真村

伝兵衛

茂右エ門方

柿屋

一 西村

与兵衛

茂右エ門方

天保年中金直し

高尾忠兵衛

四町目

此道廿四小路御田地の通道広キ道也

孫左エ門裏尻三王ノ屋敷有之孫左エ門屋敷ニ取直し申

しハ

一 走村

孫左衛門

又左エ門方

一 走村

管江利右衛門

太左エ門方

屋敷

一 今村

深尾又兵衛割

茂右エ門方

深尾権右エ門

一 走村

八郎兵衛

太左エ門方

宇野惣次郎割

一 太左エ門方

宇野本右衛門

一 又左エ門方

孫兵衛

一 又左エ門方

林平八

一 真村

園作兵衛

又左エ門方

太田孫兵衛

此会所ノ裏大成ふち有、此屋敷尻ニ大成縦ノ木有之候  
是ヲ以さいかち限ト云也、其者堀ゝせ貫ノ樋有、其  
隣藤掛孫六郎屋敷也

寛延貳巳年八月十日

長兵衛ノ出火其年ノ

人足会所ト成 孫八郎持

泉屋力藏

一 走村

又左エ門方

三 町 目

- 一 茂右エ門方 畑屋吉兵衛割 七 助
- 一 西村 茂右エ門方 伝兵衛
- 一 茂右エ門方 北村崑左エ門割 北村又左衛門
- 一 真村 茂右エ門方 源兵衛
- 一 走村 太左エ門方 林平三〇
- 一 同村 太左エ門方 勘十郎
- 一 真村 太左エ門方 市兵衛
- 一 西村 太左エ門方 往古九藏家来 松沢太左衛門
- 一 西村 太左エ門方 辻四郎兵衛割 辻善兵衛
- 一 真村 太左エ門方 奥村喜左エ門

式 町 目

- 此小路大切成小路也 大御通り衆ノ道也、馬除ノくひ有、其境目ヲ表达引通シニ而御座候 元禄三年ノ節ハ八左エ門庄屋役相勤ル折柄此小路ヲ三町目地面ニ可致様申居ル 其後宝永ノ時代又ル庄屋ヲ相勤、又々右小路ヲ弥三町目地面ニ可致候様相催ルニ付伝左エ門相手ニ罷成町内引取候ニ付其おわびとして右地面ニ雪隠ヲ相立候様町内ル被申候間雪隠相立肥手として納米壹斗ツ、御藏へ納申ル
- 一 西村 太左エ門方 辻四郎兵衛割 辻十兵衛
  - 一 走村 太左エ門方 平三郎割 林五平次
  - 一 真村 茂右エ門方 寺本次郎三郎
  - 一 走村 茂右エ門方 平井屋勘兵衛組 彦右衛門
  - 一 茂右エ門方 須佐美忠右衛門
  - 一 茂右エ門方 五兵衛屋敷 文左エ門持

東海道草津宿關係史料 (二) (小林)

一 増兵衛屋敷 平七

一 茂右工門方

一 走村 田中与茂作屋敷  
又左工門方 平元茂左衛門

一 此小路廿四小路之内

一 壹町目

一 真村 元 伝次組 九藏同  
太左工門方 元禄時代ニ代ル 田中七左衛門

一 真村 田中平藏  
又左工門方

一 今村 与兵衛  
茂右工門方

一 此小路廿四小路之内

一 今村 太兵衛  
太左工門方

一 又左工門方 文政三辰年改  
源藏

一 八右衛門

一 忠左衛門持

一 札ノ辻ノ西ヘぬけ道有之 此藪之間往古式間斗も有之  
宮ノ川堤迄ノ道也

一 助郷御證文之写

一 高壹万七千九百拾五石 助郷廿九ヶ村

一 江州栗太郡

一 高 千五拾八石 野路村

一 〃 貳百九拾三石 岡村

一 〃 千七拾七石 矢倉村

一 〃 六百四石 大路井村

一 〃 千貳百拾三石 渋川村

一 〃 六十八石 市川原村

一 〃 七百六拾七石 追分村

一 〃 千貳百壹石 部田村

一 〃 貳百七石 南小柿村

一 〃 四百四十五石 北小柿村

一 〃 三百廿九石 中沢村

一 〃 五百九拾八石 目川村

一 〃 八拾八石 笠川村

一 〃 八百廿三石 野村

一 〃 五百五拾五石 山寺村

一 〃 四百七十四石 川原村

一 〃 千六百拾七石 下鉤村

一 〃 貳百五拾石 馬場村

一 〃 八百九十四石 上笠村  
 一 〃 千七拾貳石 繼村  
 一 〃 六百三拾壹石 岡本村  
 一 〃 貳百七十九石 坊袋村  
 一 〃 六百拾壹石 御倉村  
 一 〃 四百八拾石 平井村  
 一 〃 五百五石 小平井村  
 一 〃 六百三十九石 南笠村  
 一 〃 四百五十八石 安養寺村  
 一 〃 六百十五石 集り村  
 一 〃 五百三十四石 沢村

右者只今迄ハ定助郷大助郷と相分り人馬差出候得共  
 向後右名目相止候間書面之助郷村ニ甲乙割合人馬無  
 滯可出候、勿論此帳者草津宿差置助郷村々ニ而者写  
 致置自今已後急度可相守若費之人馬觸出候助郷も不  
 参ニおゐてハ可為曲事者也

享保十年巳十一月

稲下野守 御印  
 北安房守 御印

草津宿

問屋

年寄

右助御村々

名主

百姓

前書之東海道草津宿之儀者中仙道落合之駅場ニ候処  
 是迄助郷高壹万七千九百拾五石ニ而往来多節者人馬  
 差支及難儀候旨助郷村々ニ再応相願難儀之趣無相違  
 相聞候ニ付御代官石原清左衛門致吟味猶又旅奉行評  
 議之上左之通増助郷申付候

村高五百十九石余ノ内 江州栗太郡  
 一 助郷高貳百拾三石 手原村  
 村高貳百九拾石余ノ内 同州同郡  
 一 助郷高八拾六石 上鈎村  
 村高貳百貳拾石余ノ内 同州同郡  
 一 助郷高六拾五石 寺内村  
 村高五百五十七石余ノ内 同州同郡  
 一 助郷高九拾三石 川辺村  
 村高五百廿九石余ノ内 同州同郡  
 一 助郷高百三拾五石 下戸山村  
 村高四百五十四石余ノ内 同州同郡  
 一 助郷高貳百拾石 穴村  
 村高三百拾六石余ノ内 同州同郡  
 一 助郷高八拾七石 新堂村  
 村高六百拾貳石余ノ内 同州同郡  
 一 助郷高貳百貳拾三石 大萱村  
 村高千六百五拾九石余ノ内 同州同郡  
 一 助郷高貳百四十四石 下笠村  
 村高千四百五拾壹石余ノ内 同州同郡  
 一 助郷高貳百九拾貳石 北山田村  
 右枝郷木ノ川村共

但北山田村木川村兩村山王日吉神夏之節 船役相

勤候ニ付神事日數三十日休日申付候

村高六百三十式石余ノ内

同州同郡

一 助郷高百八拾五石

南山田村

村高八百十式石余ノ内

同州同郡

一 助郷高式百五十五石

片岡村

助郷高

合 式千八拾五石

右之通草津宿増助郷申付候間是迄勤來候助郷村之勤  
方同様相心得右宿問屋觸当次第無滯人馬可差出者也

安永三年十二月

彈正 御印

筑後 御印

草津宿

問屋

年寄

右助郷村々

手原村

上鉤村

寺内村

川辺村

下戸山村

穴村

新堂村

大萱村

下笠村

北山田村

南山田村

片岡村

右村々

名主

組頭

御飛脚米御證文之写

草津宿

一 米三拾五石六斗四升九合 京升

右是者御伝馬并次飛脚御用之ため当酉年ノ丑年被下  
候間草津宿年寄手形ヲ取被相渡重而可有御勘定候以

上

寛永拾癸酉

三月廿七日

松田九郎兵衛

武藤理兵衛

曾根源左衛門

井上新右衛門

観音寺老

右是ヲ当山米と名付年々頂戴仕候

無賃人馬御證文之写

無賃人馬之儀宿人馬九十五人九十五疋不殘差出其上ニ  
も無賃人馬相当り候節ハ助郷ノ不差出候半而者難計事  
候然時者人馬賃錢宿ノ并可拂筋ニ者無之候併無賃人馬  
九十五人九十五疋差出儀者有之間敷候得共万一有之候  
得者右之通相心得其旨助郷之者共ヘ可相達者也

申十月

下野 御印  
相模 御印

草津宿  
問屋  
年寄

從御公儀様為御飛脚往来年々被下米之事

一 米四拾三石五斗四升八合

右者從 御公儀年々被下米

此 記

米三拾五石六斗五升三合

寛永十四年  
為飛脚給と被下候

米七石

寛文五年

問屋肝煎給被下候

米八斗九升五合

天和三年

石部山延道五町

五拾五間之分御飛脚

増給被下候

從御公儀宿方江永拝借并御救ホ被下候事

一 金五百兩

右者万治子年從 御公儀永拝借被 仰付宿中配分仕

候其後余配分之金壹兩ニ付錢五文宛日錢ニ取集メ金

五百兩と銀三拾貫目都合仕 御地頭儀者御借付

被成下利足銀年々被下置

御貸付と可書処借付と  
書アリ執筆ノ誤カ原本ノ儘

一 金三拾貳兩貳步

右者正徳貳辰年ニ御役所被為仰付候ニ付諸入用とし  
て乾金六拾五兩被下置候処文金相成候其後ハ半減金  
子右之通年々從 御公儀様頂戴仕候

一 米貳百拾九俵

右者御觸伝馬役家之内難御高株七十三人江殿様ハ被  
下置候天和年中ハ年々頂戴仕候

一 金五拾兩

一 同 百八拾兩

馬買金  
馬飼料金  
人足夫助金

右二口者享保十巳年從 御公儀様頂戴仕候 御地頭  
様ハ御借付ニ被成下右利足金年々頂戴配分仕候

一 金百拾兩

永百三拾文七厘七毛

右者安永三年年々人馬賃錢三割増被為 仰付老割通  
り勿錢

御地頭様ニ而御借付年々利倍ニして元金千百兩永八  
十三文九分七厘弍毛此利足金之内八步通り安永十二  
寅年ハ被下置候配分仕候

從御公儀人馬賃錢割増之内勿錢之溜御貸付利金被

下候事

天明二壬寅年十二月於 御勘定所被 仰渡候御書付ハ

東海道草津宿關係史料(二)(小林)

通帳面一冊左之通

一 東海道佐屋路共去午年ノ人馬割増劔錢之溜年考割五歩貸付利倍有之候処去丑年之分貸付金高元ニ居置当寅年分の利金已來宿助郷成した免年ニ相渡ス答ニ付割合左ノ通り

一 東海道宿之御料社領をも八分通り者宿人馬役之ものへ致割渡候式分通り者宿之惣本陣割渡候積り

右人馬役之者共八分通り割渡候上者宿之定之人馬相減不申様可致旨可被申渡本陣之義者近來別ニ休泊之助成も薄く家居及破損候事修覆も難成困窮之趣相聞候ニ付為手当利金劔錢之内前書之通割渡候答ニ候尤本陣請取高甲乙無之た免御料私領共一宿限り利金高之内式分通之金伊奈半左衛門方へ早々差出同人方ニ而金高取集メ本陣百六拾軒余佐屋路本陣も割渡し候積リニ候間

請取之銘ニ宿場本陣へ可被相渡候 然ル上ハ年々修覆ホ差加へ休泊之差支無之様勿論已來本陣修覆拜借難成事ニ候間其旨可被申渡候

一 貸附元金高少キ分ハ利金之内十分一宛年々元金差加へ殘金之分宿割掛本陣割渡之積リ可被取斗候

但元金少キ分者別段可被申達候

一 右年々伺出し候振合別紙案文之通相認正月二十日迄可被差出候

右之通銘々宿役人共可被申渡候弥以往來人馬不差支様可被取斗旨可被申渡候

寅 十二月

附紙左之通

式分返候金伊奈半左衛門へ被差出ル節何宿本陣何軒誰ニ被申儀書附相添同人方へ可被差出ル

覚

安永三年ノ人馬割増劔錢之溜々去丑年貸付ル覚

附 御代官所

誰領分

東海道  
中仙道  
美濃路  
之内

佐屋路

一金 何程

何宿

此利金 何程

内

八分通金何程

但し年一割五分

宿人馬役之者へ割掛

式分通金何程

本陣江割渡候分

一金 何程

何宿



内

同断  
同断

右者東海道中山道美濃路佐屋路宿々及困窮候ニ付安永三年去ル丑年迄中年七ケ年之間人馬賃銭割増被仰付右之内勿銭之溜初年一割五分之利付ニ宿外村々貸付利倍仕ル処去丑年貸付高書面之通罷成候然ル処右利金分当寅年去已来宿助郷ニ仕前書割合之通宿割掛之積被仰渡ルニ付銘々割渡申しルは元金之義者是迄ノ通り貸渡利倍仕来卯年暮ニ至リ利金割掛之義相伺ル様證文可被下ノ已上

年号

御代官

誰印

誰家来

誰印

御勘定所

一 草津宿大助郷

四拾壹ヶ村

勤高 貳万石

内

七千五百四拾貳石六斗

御領分高

壹万三百九拾貳石四斗

御他領高

訳

御領分 拾ヶ村

野路村 矢倉村 岡村 浜川村 追分村

中沢村 笠川村 山寺村 岡本村 御倉村  
御他領拾四ヶ村

大路井村 南小柿村 北小柿村 目川村  
市川原村 野村 川原村 馬場村 上笠村  
繼村 沢村 小平井村 坊袋村 安養寺村  
御領分 入交五ヶ村  
御他領 部田村 鉤村 平井村 南笠村 集村

御領分新助郷

下笠村 北山田村 南山田村

此高 七百貳拾壹石

御他領新助郷

上鉤村 新堂村 手原村 穴村 寺内村 大萱村  
村

此高八百八拾四石

御領分

入交新助郷

片岡村 川辺村 下戸山村

此高四百八拾石

高合貳千八拾五石

右者安永三年新助郷と被仰付候

從 御公儀様草津宿へ御救

寛

一 御米三拾六石五斗四升八合

是ハ寛文十四年ノ御伝馬人足御繼飛脚之者共へ被為下每年多羅尾四郎右衛門様ニ而請取頂戴仕候

一 御米百五拾石

是ハ寛永十五年嶋原落着以後御伝馬へ被 下置候

一 御錢三拾貫文

是ハ正保三戊年六月

法皇様御不例ニ付御伝馬之者昼夜往来仕為 御褒賞被下置候

一 御錢貳拾貫文

是者正徳四亥年長 津江 船入津ニ付御繼飛脚之者共切々往来仕為御褒美被為下置候

一 御米七石

是ハ寛文五巳年間屋年寄給米として毎年多羅尾四郎右衛門ノ頂戴仕候

地子御免許

地子壹万歩

内

廿四石七斗三升八合

寛永十四亥年六千四百坪

宿々へ被下候

拾三石九斗壹升五合

慶長年中 三千六百坪

宿々へ被下候

此高三拾八石六斗五升三合御伝馬役九十四人へ頂戴仕候 当时者百人へ頂戴仕候

御拝借之分

一 御錢 百貫文

是ハ寛永十三子年御拝借被為 仰付此錢享保十一年年ニ被下置候 尤小幡三郎左衛門様久留七郎左衛門様大坂表ノ錢御持参ニ候

一 御金 百五拾兩

是ハ寛永十九午年退伝馬五拾疋分壹疋ニ付金三兩ツ、御拝借被為 仰付候金 上納仕候

一 御米 貳千百俵

是ハ雜物高置ニ付寛永十九午年ノ未年迄御拝借被為仰付代御米上納仕候 但三斗五升入

一 御金 千貳百三十三兩壹歩

是ハ寛永十九午年ノ翌末年迄穀物高値ニ付御拝借被為仰付必上納仕候

一 御金 五百兩

一 御金 五百兩

是ハ寛永廿未年兼松弥五左衛門様御登り御拝借被為

仰付候此金必上納不仕別享保十一午年被下置候

一 御米 六百俵

是ハ寛永廿未年朝鮮人來朝場面之砌拝借被為 仰付候

上納仕候 但し三斗五升俵

一 御錢 四千貫文

是ハ明曆四戊年ハ万治式亥年适度々御拝借仕 此錢必

上納仕候

一 御金 五百兩

是ハ万治三子年永拝借被為仰付宿中配分仕候、其後配

分之金壹兩ニ付錢五文ツ、毎日相集メ金五兩ト銀三拾

貫ニ罷成候時分利付郷中ハ借シ置毎年右之利足御地頭

様ハ御取立宿方へ被下助成ニ罷成候、然ル所近年四ツ

宝銀相止メニ付右之銀子只今ニ而ハ減少仕り候故当分

ハ利足請取不申候 御借付被下文銀三拾貫ニ相成候得

共前々之通利足請取助成ニ仕候筈ニ御座候

一 御錢 千貫文

是者延宝貳寅年御拝借被為 仰付此錢 上納仕候

一 御金 五拾兩

一同 百八拾兩

享保十一年年長谷川庄五郎様宿ニ御調へニ被遊御登其

後相止候由

一 御金 貳百兩

是ハ天明七未年正月御手当被下候

一 錢

一 御金 三拾兩

是ハ寛政元酉年馬代として被下候 御領ハ五拾兩ツ、

私領ハ三拾兩ツ、

一 御金 四拾壹兩

内 拾兩ハ宿入用として被下候

是ハ琉球人來朝ニ付 宿助へ被下候

文化十四丁丑年四月

明細帳

栗太郡四箇庄

慶長七年御檢地帳表

一 高千五百五拾七石貳斗貳升 小堀新助御印

内

五拾石者 御朱印地常善寺

千五百七石貳斗貳升 草津宿高

内

三拾八石六斗五升三合

右者從 御公儀様被下置御傳馬高地子壹万歩六

分寛永十二亥年より

残り高

千四百六拾八石五斗六升七合

内

六斗四升八合

年々万永引

内元禄七甲戌年より老斗式升六合溝替永引

同十五壬午年より五斗式升式合裏屋敷地永引

五百五石四斗四升八合五夕永荒与申事ニ御座候

旧記ニハ三百七十五石六斗九斗五合

永荒与申事ニ御座候トアリ

九百六拾式石四斗七升五夕 当時毛附高

一 高合千四百六拾七石九斗老升九合

内

田方 九拾五町九反四畝八歩

内

上田 四拾四町五反式畝拾八歩

但し老石五斗四升代

此分米六百八拾五石七斗式合

拾七町三畝廿七歩

中田 拾七町三反廿七歩

但し老石四斗代

此分米式百三拾八石四斗六合

下田 九町三反六畝廿三歩

但し老石三斗代

此分米百式拾老石七斗七升九合

荒田 式拾五町老畝歩

但し老石四斗五升代

老石五斗四升代ニアリ

此分米三百六拾式石六斗四升五合

畑方屋敷合拾式町八反式畝歩

内

老畑 四町六反五畝拾五歩

但し老石三斗代

此分米六拾石五斗老升五合

上畠 式町老反八畝歩 但し老石老斗代

此分米式拾三石九斗八升

中畑 九反六畝五歩 但し九斗代

此分米八石六斗五升五合

下畑 式反 但し七斗代

此分米 老石四斗

荒畑 老町四反五畝歩 但し九斗代

此分米 拾三石五升

屋舖 三町拾歩 但し老石三斗代

此分米三拾九石四升三合

屋舖三反七畝歩

但し老石老斗代

此分米 四石七升

外ニ

字尾丸池跡六畝九歩  
字蓮田池跡老反六畝歩  
字大門池跡反老畝十二歩

メ三ヶ所合

延享式乙丑年

一 三反三畝式拾壹歩

米極地

此米老石六斗式升壹合

高四石三斗八升壹合

池跡田乙丑高入  
起掃改直

一 老町三反八歩

同断

旧記無

此米 老石式斗

高四石七斗五升式合

池跡田改直壬辰

一 砂川堤請所

同断

此米 式石

旧記ニハ砂川赤根川  
南堤請取御年貢ト有

御奉行生嶋又左工門様  
菅井條右工門様

延享二乙丑年

一 古川筋請所

旧記無

此米 老石六斗

畑五反五畝拾八歩

古川場請所年貢

此分米五石四合

丙寅納分起掃

畑成改直

右盛九斗

旧記ニ高元五拾石之宛

本多様膳所へ御入城之御<sub>カ</sub>廿三石ニ成ト也

右ノ内

一 御社領高式拾三石也

米拾八俵ハ社僧ニ遣ス  
式拾俵ハ神宮ニ遣ス  
三俵ハ神子ニ遣ス

内

地方

式俵ハ神人へ遣ス  
右旧記ニアリ

拾九石壹斗六升七合 草津宿

此田方老町三反八畝式拾六歩

三石八斗三升三合

右者寛永十一戌年

御公儀様為御祈禱御領主様武運長久

石川主殿頭様御寄附其後慶安五辰年本多下総守様  
御寄附御代々御黒印頂戴仕是迄年々被下置候

一 正一位立木大明神 例祭 草津村  
四月三日 立会 草津村  
矢倉村

神護景雲之年 御鎮座

往古ノ除地

境内

東西七拾老間三尺余  
南北六拾老間

人王四十九代

光仁天王御宇宝亀八丁巳年雨乞勅使參籠

人王五十代

桓武天王御宇延暦五丙寅年依勅願賜 正一位

東向

天保六乙未

本社

二間四面

上加茂御本社  
旧殿御寄附

旧記ニ曰

前五尺四寸廣床  
南脇二尺三寸大床

中門 幅壹間  
桁行五尺

瑞籬 南北五間  
東西六間

末社 南方一棟

多賀大明神

龍田大明神

稻荷大明神

加茂<sup>上</sup>明神  
<sup>下</sup>

右末社正保貳年

石川主殿頭様

御寄附

同

愛宕權現

弁財天女

山王權現

態野權現

牛頭天王

広田大明神

大將軍

旧記ニ

及大破建替 寛保酉之年  
十一月相濟有之由トアリ

拜殿 三間四面

及大破天明元丑年  
再建寅年供養

神輿藏 桁行貳間半  
梁 貳間

神能之節樂屋老ヶ所

神樂殿 桁行三間五尺  
梁 貳間

妙法塔三重 高サ六尺  
犬寄六寸四方 惣石也

四ツ脚御門

樓門 桁行貳門 天保六末年再建  
梁 壹間四尺壹寸

築地 長サ八間 但し樓門之両脇也  
梁 四尺五寸

右者

鈎り御所様御寄附之様申伝

神木 柿 本地堂とも  
榊 本社乾方有

護摩堂 本地堂とも  
桁行三間 梁 貳間

中尊 千手觀世音菩薩

脇立 左 不動明王  
右 多門天

天満宮

天台宗普賢院神宮寺

庵室 桁行 七間  
梁 三間

御手洗池 内法 四尺四方

石鳥居

高サ老丈八尺  
巾 老丈六尺

字尾丸池ノ端

寛政四子年  
立木社地之内江邊座

山 神

旧記ニ南八間半

西六間

東六間

北九間

矢倉村領内れつけいと申所往還ノ道法

御旅所

八拾六間  
道巾貳間

大嘗会御用道之内

御奉納

御鋤 老挺 旧記ニ無シ

右者大嘗会之節下置也

御紋付

御提燈

貳張旧記ニ無シ

右者広幡様ノ御寄附

旧記ニ

徳左エ門除地  
内

東西七十一間三尺余  
南北六十老間

境 内

南北三拾四間半  
東西三拾四間

旧記ニれつけいと云

小 社

貳尺三寸  
老尺六寸

正月三ヶ日

御膳を備へ為 天下泰平国土安全

御公儀様御祈禱 御領主様御武運長久

御繁栄奉奏神楽也

毎月朔日之御祈禱右同断

正月五月九月十六日ニ右同様之御祈禱仕也

正月六日 御神事初行ひ的張之神事と申習し志の張

弓ニ而神主 行事也

正月十五日 御祈禱之護摩於本地堂修之

正月十六日 為御祈禱大般若經転読仕り也

二月十日 御弓御神事 草津ノ兩人三人弓射申し也  
前ノ射場掃除矢倉村ノ相動申候

於拜殿大般若転読

二月十二日夜 一番尉之者於神前薪能をかたどり舞  
申し也

四月朔日 御湯立於神家行

四月二日 宵宮御神吏執行

四月三日 祭礼

但シ先前ハ四月上ノ巳之日ニ御座也処  
近來四月三日定日ニ相成申し也

神輿渡し番矢倉村者隔年尤七ヶ年目ニ  
老ヶ年ツ、矢倉村休年有

六月朔日 御田植御神事

七月朔日ノ七日迄夏ノ読経為御祈禱於本地堂執行

同十七日ノ十八日迄為武運長久於本地堂護摩修

九月十日夜 相撲之御神吏

十一月巳ノ日 御火燒之御神事  
十二月晦日 歳暮之神楽

神主 宮町居住 文政十一子八月  
社地へ引移

社僧 明神境内居住

神子 宮町居住

神人 宮町居住

一 溜池四ヶ所

此 訳

山寺領ニ有 東方者山裾六池ニ而所々間數難極惣平均壹町  
四方余六池也

郡生野池 但池守料として米四斗ツツ山寺村へ年ニ可遺事

尾丸池 東西四間 南北貳拾間

込田池 東西六拾六間 南北平均百七間

字鐘突

新池 東方 四間 西方 三十四間半  
北南 四間 北南 三十四間半

南方 六十八間 北方 六拾六間  
東西 六十八間 東西 六拾六間

但し堤とも

(付紙)  
旧記

此 訳 溜池五ヶ所トアリ

山寺領 郡乗池 本文之通リ

字 尾丸池 東西三十五間南北廿間

字 込田池 本文之通リ

字 大門池 東方南北五十二間、西方南北廿四間  
南方東西廿八間、北方東西三十一間

字 蓮田池 東西六十四間、南北三十六間

追分領ニ有 一 大湯 東西平均八間余南北同四十四間余

同 一 二湯 東西平均拾九間貳尺南北同拾間四尺

追分村領境ニ有 一 野田湯東西平均三間南北同貳拾間

追分領ニ有 一 鐘 突 四箇川筋高追分村ト組合  
イセキ但シ薄年貢米貳斗ツツ同村へ遺ス田  
元々割出之事

一 門 樋 長サ貳間高サ六尺 旧記無  
巾卷丈四尺

字生水一町目東裏 一 カエ上ヶ池 但シ中之町筋井頭カエ上ヶ池

字衛門池壹町目西裏 一 同 断 東西三間南北貳間四尺 旧記無

字本願寺辻東町往還端有 一 種ツヶ池

宮町東裏ニ有 一 同 断



三町目北端往還通

東西 南北

一 水溜池  
山寺領之内郡生野落し樋

長サ式拾七間内法 高六寸五分  
巾 七寸

立樋 長サ老丈

旧記 高サ老間半  
内法六寸四分

山寺村領之内郡生野池尻伏稜

一 埋樋 長サ七間 内法 高六寸五分  
巾 七寸

砂川掛越北境岡村領南堤部田村領

一 同 同 四十三間内法 高老尺  
巾老尺貳寸

文化九未十一月伏替ル御地頭々右樋被仰付候得共御断申  
是迄通旧記ニハ長四十四間三尺内法此通ニテ相成候

字三町束用水

一 同 同 貳間貳尺内法 高四寸  
巾五寸五分

字的場用水

一 同 同 三間五尺内法四寸四方

込田池入極

一 同 同 三間 内法 高老尺貳寸  
巾老尺六寸五分

但シ鳥居落シ戸有

右文化十四丁丑々右被仰付候事

込田池の場落シ樋 旧記ニハ長サ三間五尺  
内法四寸四方

一 埋樋 長サ四間三尺内法四寸四方但シ立樋  
有右同年々壺樋被仰付候事

込田池宮町へ落シ樋

一 同 同 七間四尺 旧記ニ無

但シ立樋有

同所赤根川入口樋

一 同 同 三間 内法式尺四方

旧記ニ高サ老尺巾老尺五寸  
但シ鳥居落シ戸アリ

字十糸筋

一 石樋 同 九間三尺内法 高老尺  
巾老尺五寸

但シ鳥居落シ戸有 旧記ニ無

字宮ノ後伏稜

一 埋樋 同 拾五間式尺内法 七寸  
八寸

字蓮田池入樋

一 同 同 七間 内法 四寸  
五寸

大門池宮川へ入樋

一 同 同 三間式尺同四寸四方

大門池入樋

一 同 同 老間 同 五寸  
六寸

大門池筋江宮町北堤

一 同 同 三間式尺同 五寸四方

字寺田用水

一 同 同 同 四間三尺 同 八寸四方

字北森部

一 同 同 同 同 八寸四方

字上野田追分村道

一 門樋 同 同 長五尺貳寸 内法 式尺七寸  
五尺貳寸

- 但シ落シ戸有  
右文化十四丁丑年ノ石垣ニ被仰付  
候
- 追分村ニ有字大湯  
一 走 卷ヶ所 同九尺五寸 巾卷間  
旧記長五尺二寸内法式尺七寸、五尺二寸  
但シ落シ戸アリ
- 同村ニ有字二ノ湯  
一 同 断 同式間 同卷間式尺三寸
- 宮町往還伏稜  
一 埋 樋 同六間式尺 内法五寸四方
- 坂口往還伏稜  
一 瓦 樋 同式間五尺 同 五寸四方
- 同断  
一 同 断 同式間五尺 同 五寸四方 旧記無
- 東町往還伏稜  
一 同 断 同三間卷尺 同 七寸四方
- 同断  
一 同 断 同三間半 同 六寸四方
- 同断  
一 同 断 同三間卷尺 同七寸四方
- 同断  
一 石垣樋 同三間卷尺 但石ぶた
- 横町往還伏稜  
一 瓦 樋 同三間 同四寸四方
- 横町往還伏稜  
一 瓦 樋 長式間四尺 内法四寸四方

- 同断  
一 石垣樋 同三間三尺 但石蓋
- 同断  
一 瓦 樋 同三間 同四寸四方
- 同断  
一 同 旧記ニハ 同式間五尺 同 同断  
石埋樋トアリ
- 同断  
一 同 同式間三尺 同 同断
- 同断  
一 同 同式間三尺 同 同断
- 同断  
一 埋 樋 同式間三尺 同 同断
- 同断  
一 瓦 樋 同三間 同 同断
- 東横町往還伏稜  
一 瓦 樋 同三間三尺 同五寸四方 旧記ニ無
- 同断  
一 同 同三間式尺 同 同断旧記ニ無
- 同断  
一 同 同式間五尺 同 同断 旧記ニ無
- 右三者文化十四丁丑年ノ石垣ニ被仰付候  
但シ石ぶた 旧記ニ無
- 右三ヶ所寛政七卯年新願ニ付被仰付候  
此分文化十四丑年ノ石垣ニ被仰付候

一 立會山組郷 拾五ヶ村

部田村 馬場村 岡本村 山寺村 矢倉村  
 大路井村 渋川村 中沢村 岡村 目川村  
 坊袋村 川辺村 小柿村 追分村 草津

右山手代として錢三百文宛年々相渡可申候

一 御年貢米之船賃米六俵ツツ年々矢橋浦茂兵衛方

へ遣し申候トアリ旧記ニ

一 野あらし禁樺杭 拾五ヶ所

一 石橋 五ヶ所

訳

老町目 境井川筋 長サ七尺五寸  
 式町目 巾三間半

字 三王川 同 六尺  
 三間三尺

字 四間川 同 四間半  
 式間

旧記ニ曰 右下地ハ土橋ニ候所享和ニ戌年大水ニ流シ  
 其後石橋ニ相成申候

字 生灵川 同 五尺  
 三間式尺

矢倉村境 同 式尺  
 式間半

右新福寺湯筋也尤御大名御泊リ之節外堀也

一 惣田数九拾五町九反四畝八歩

内 五拾石者 常善寺領

此訳

上田 老石五斗四升代 式反四畝歩  
 上中之町 高三石六斗九升六合

中田 老石四斗代 老反歩  
 中之町 高老石四斗

下田 老石三斗代 五反式畝式拾四歩  
 糖田 高六石八斗六升四合

下田 老石三斗代 三反老畝四歩  
 筋違 高四石四升七合式歩

上田 老石五斗四升代 三反歩  
 八町繩手 高四石六斗式升

同 同斗代 九畝十歩  
 キロメキ 高老石四斗三升七合三夕

同 同斗代 七畝拾八歩  
 猪子辻 高老石老斗七升四夕

同 同斗代 五畝十歩  
 ダグ田 高八斗式升老合三夕

同 同斗代 五反七畝歩  
 中中ノ町 高八石七斗七升八合

同 同斗代 八畝歩  
 サガリハ 高老石式斗三升式合

同 同斗代 老反五畝歩  
 寺ノ後 高式石三斗老升

中田 老石四斗代 式反拾八歩  
 千束 高式石八斗八升四合

上田 壹石五斗四升代  
上高添

貳反歩  
高三石八升

上田 同斗代 鐘突

七畝拾歩  
高老石壹斗貳升九合三夕

上田 同斗代 魚之前

七畝拾四歩  
高老石貳斗老合貳夕

合三町四反四畝歩

中田 壹石四斗代

三反八畝貳歩  
高五石三斗貳升九合三夕

大向 反別合三町四反四畝歩

内訳

上老町九反老畝十貳歩

此分米廿九石四斗七升五合五夕

中六反八畝廿歩

此分米九石六斗老升三合三夕

下八反三畝廿八歩

此分米拾石九斗老升老合貳夕

一 人数貳千六百四拾八人

但し宿内

本家借家留主川共

一 百軒 馬役

一 百軒 歩役

一 貳軒 社人

一 八軒 寺方

一 貳百三十貳軒 隱居

後家 借家

一 東海道見付の中山道別

御高札場迄

間數貳百七拾間 東横町

西横町

一 中山道見付の矢倉村境黒門迄

町中惣間數四百四拾三間半

老町目

貳町目

三町目

四町目

五町目

六町目

宮町

宿内町數 右九町

一 草津宿の

膳所迄道法

三里

勢多迄同

貳里五町

梅ノ木迄同

壹里半

山田迄同

壹里八町

矢橋迄 同 壹里

金勝山迄同 三里

東海道宿入口

巾貳拾七間

一 砂川 内

拾八間 膳所領 草津宿

九 間 齊藤左門領 大路井村

中山道入口

一 砂川 内 巾拾三間半

九 間 草津宿

四 間半 大路井村

一 酒株 四ツ

此記

造高 貳百石 文左衛門

同 四拾石 善五郎

同 七拾石 平兵衛

同 六石貳斗 五郎兵衛

西本願寺宗 館定山

淨教寺

境内 東西拾九間 御年貢地 南北三十三間

慶長元丙申年草莽開基慶忠 代々持庵ニ御座候

東本願寺宗 布薩山

伝久寺

境内 東西廿三間 南北廿間

但シ旧地者北ノ方ニ御座候処元禄十四巳年ニ只今之地面へ引移リ申候右之内貳畝四步ハ徳左エ門除地其余者御年貢地開基之儀者寛文九酉年火難之節記録共々焼失仕縁記相知レ不申慶長十九年寅年中興開基善徳以来代々持庵ニ御座也元禄十四巳年再建住持了誠宝曆九卯年再建住持惠潮宗門手形一本紙并直達之寺ニ御座候

仏光寺宗広普山

真教寺

境内 東西拾六間貳尺 南北廿參間

右之内旧地東西拾貳間貳尺南北拾三間半徳左エ門除地其余ハ御年貢地ニ御座候 開基之儀者天正十六年三月焼失仕候ニ付記録縁記相知レ不申候天正十七丑年再建中興開基法西以来代々持庵也

浄土宗誓願寺直末

宝樹山 真願寺

境内 東西拾壹間 德左工門  
南北拾間四尺 除地

永祿元年建立中興開基信譽兼帶通寺ニ而者無御座代ニ有坊ニ而御座也

日蓮宗京立本寺直末

法性山 園融寺

境内 東西平均三十六間  
南北平 廿壹間

右之内東西廿五間半南北廿壹間此分德左工門除地其余者御年貢地ニ御座也開基之儀者行寂院永祿貳末年建立其後寛文九酉年類焼仕縁記之儀者相知不申也代ニ有坊ニ而御座也

仏光寺宗直末

鈴風山 養專寺

境内 東西廿七間余  
南北十九間余

右之内東西廿七間南北拾五間德左工門除地其余ハ御年貢地 開基之儀者永正三寅年焼失仕縁記宝物ハ焼失仕相知レ不申也其後飯家ニ而天文年中称讚と申者再来し仕也尤代ニ持庵ニ御座也明和八卯年本堂建替仕也

浄土宗知恩院直末

仏国山地藏院 正定寺

但 塔頭無御座也尤来の一ヶ寺矢倉村正念寺と申有之也

境内 東西三拾三間余  
南北 拾五間余

右德左工門除地

開基之儀者由来共弘治元卯十一月寺焼失仕相知不申也寛延三年本堂再建仕也住持見替

東本願寺京金福寺下

留主川 園教寺

境内 東西拾間三尺  
南北十三間

右之内東西九間六尺南北八間壹尺德左工門除地其余御年貢地開基之儀ハ先年川切之節書物ハ流失仕也ニ付年号并住持名前共相知レ不申也元和九亥年再建中興開基道順以来代ニ有坊ニ而御座也寛永辰年修覆仕也

御改所一件

正徳貳辰年三月道中御奉行從

松平石見守様  
大久保大隅守様

東海道品川宿 府中宿 草津宿御召ニ付罷下り候処右

三ヶ宿ニおいて御往来御荷物貫目相改候様被 仰付其  
御宿々々十五ヶ条之御条目被下置別而改宿之儀者添御  
条目左之通被下置候

一 道中往来之儀ニ付此度御条目出シ候間右之趣弥相  
守末々猥ニ不成様ニ宿中申合尤怪キ旅人交リ共聊無礼  
非分之儀致間敷候就中改所之儀者入用金をも被下被

仰付候上者猶以不埒無之外宿之格ニも成候様ニ致助郷  
ハ出候人馬も改所へ寄候員数を以余宿之人馬と数を改  
若此上無益之人馬割掛候宿も於有之者吟味之上曲事た  
る歴く候事

一 諸荷物貫目改方取斗

此儀御往来諸荷物当宿人馬とも付替之節御貫目手引仕  
候而手直し早々取付可申候格別通貫目之分も其段御断  
御聞入御座候ハ、其目方ニ従ひ人馬相増申候御聞入無  
御座候ハ、御秤ニ而相改同様人馬相増賃錢請取御継立  
其段者宿へ可申觸候

一 正徳式辰年翌巳年兩年金六拾五兩宛天津御役所ハ  
頂戴仕候處正徳四年年ハ道中御用金之内ハ宿へ相渡頂  
戴仕候享保四亥年金銀御吹替被 仰付其年ハ半減三拾  
式兩式步宛毎年頂戴仕候

此訳

一金 三拾式兩式步

内 九兩

拾五兩三歩

問屋 四人  
名主 三人  
年寄 三人  
都合九人江  
金壹兩ツ、  
頂戴仕候  
下役 九人  
宍人ニ付  
壹兩三歩ツ、  
頂戴仕候  
年中諸人用

此遺払

七兩三歩

御秤直し 細引

看板  
掛錢

筆紙墨 蠟燭 油

桃灯 御秤場修覆

定

一 駄賃 并人足荷物之次第

駄荷物 四拾貫目

乗掛下 式拾貫目

輕尻下 五貫目

步持宍人 五貫目

步持宍人 五貫目

乗物宍挺 人足六人

小乗物カ挺

人足四人

打上カ駕カ挺

人足三人

但シ人足カ人持之重サ五貫目之積 三拾貫目之荷物  
者六人可持 夫カ輕キ荷物者貫目ニ随ヒ人数減此外  
何連之荷物モ是ニ準ス歴シおト婦ト漬ケハ輕尻ニ同シ夫  
重キ荷物者本駄チん同シなるべし夜通シ急々通ル  
輩輕尻ニ乗トも本駄賃錢同前タるべし

正徳貳辰年

三月

右之通被 仰出候者也